

中学2年進路講演会（2025.1.31）

本校では生徒が講演会に参加する機会が年に数回あります。5月の聖ラ・サールの日の講演や、10月のバザー講演会は全校的なものですが、6月の高校文化祭での学術講演会、数年に一度の情報モラル講演会のような中高別の講演会もあり、さらには各学年主催で外部から講師を招いて講演会を実施することもあります。講師の先生は、各団体から出前授業の申し出をいただいておりますが、ベテランの教員が昔からのつながりでOBを呼ぶこともあります。

今回は中学2年の学年主任がかつて担任した（本校43期生、1994年3月卒業）下村哲也さんをお招きし、その中学2年生向けに「職業や進路の話」と題してご講話をいただきました。下村さんは、東京大学法学部を卒業され、現在は鹿児島市で弁護士事務所を開業、気鋭の弁護士として幅広く活躍していらっしゃいます。まずご自身のラ・サール時代も含めたこれまでの人生の歩みについてお話しいただきました。

下村さんと、参加した中2の生徒たちとは35歳の年齢差があります。自己紹介で紹介された昔の写真は下村さんが現学年主任などと一緒に写った35年前のもので、場内からは「え？」「若っ!!」という驚きや笑いを含んだ大きなよめきが上がりました。35歳差の下村さんと現中2が同じ教員に習っているが故の盛り上がりです。そのおかげで、一同リラックスして話を聴くことができました。下村さんはコツコツと努力するタイプで、中学では中下位で苦しみながらも次第に成績を上げて、最終的には東大に届くところまで実力を高めましたが、これも生徒諸君の励みになったと思います。

ついでご自身が身を置いている「法曹」の世界について、「法曹とはなにか」「法曹の魅力」「法曹になるには」といったお話をいただきました。世の中の様々な職業をあまり知る機会のない中学2年生にとって、「法曹」という業界は決して身近な存在ではありませんでしたが、実際の訴訟で取り扱われるような具体的な話題も交えつつ、その仕事の魅力について広範にお話を伺うことができ、生徒たちも新鮮な印象を受け、新たな進路に目を開かれたようです。

最後には下村さんから「学校で扱う各科目を学ぶ意義があるのか悩んでいる」生徒へ「中学・高校での各科目で学んだ事柄が身についていると、同じものを見ても見えるものが違ってくる。若いうちに満遍なく学んだ方がよい」というアドバイスがありました。共感するものがあつたのか、多くの生徒がうなずきながら耳を傾けている様子が印象的でした。

